

教育は子どもたちに薬害を伝えているか 学校は子どもたちを薬害から守れているか

薬害被害と教育・学校について考えるシンポ

日時：2015年12月13日(日)午後 14:00 ~ 16:30

場所：大阪人権博物館(リバティおおさか)リバティホール
JR「芦原橋駅」下車、南へ600m。JR「今宮駅」下車、西へ800m。南海「木津川駅」下車、東へ300m。

<第1部>始まりつつある薬害防止教育の実践と現状

- ★被害者の文科省交渉で学習指導要領解説に薬害問題を扱うことが記載された成果と課題
花井十伍さん(厚労省「薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会」委員)
- ★全ての中学3年生への「薬害を学ぼう」の教材配布から5年、薬害防止教育の実践例と課題
栗原 敦さん(厚労省「薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会」委員)
- ★教員免許取得のための必修科目における薬害防止関連教育の実践とその意義について
高松みどりさん(大阪教育大学 教育学部 准教授)

<第2部>HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)被害の実情・課題

- ★被害者本人が語る「HPVワクチン被害」の実情
(関西または全国の被害者や家族の皆さん)
 - ★大阪府内約20例のHPVワクチン被害症例調査報告
幸長裕美さん(大阪弁護士会所属弁護士)
 - ★HPVワクチン被害者のために学校にのぞむこと
野口啓暁さん(兵庫県弁護士会所属弁護士)
 - ★「MMRワクチン被害」の拡大防止と救済のために自治体職員として取り組んだこと
勢馬 彰さん(「MMR被害児を救援する会」元事務局長、元豊中市職員)
- 参加者の皆さんと共に、質疑応答や意見交換を交えながら進行していきます。
【コーディネーター：勝村久司(全国薬害被害者団体連絡協議会副代表世話人)】

参加費は入館料のみ。(大人500円、高大生・65歳以上300円、障害者・介助者無料)
当日、博物館は特別に13時~17時開館。企画展「薬害を語り継ぐ」図録無料配布。

主催：「全国薬害被害者団体連絡協議会(薬被連)」
(URL) <http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/> (tel)090-8529-7016
後援：「厚生労働省」「文部科学省」「日本薬剤師会」「大阪府薬剤師会」他